学園だより
名古屋電気学園
愛知工業大学
愛知工業大学情報電子専門学校
愛知工業大学名電高校
愛知工業大学附属中学校

目次：

高大連携事業	2
入試関連情報	3
国際交流など	4
組織・人事異動	5-7
入学式関連	8
卒業、就職関連	9
学校説明会など	10

発行所
名古屋電気学園
〒470-0392
豊田市八草町八千草1247
TEL (0565) 48-8177

組織も人も新たに、平成十九年度始まる

『建学の精神』忘れずに、教職員一体となって、少子化問題などに立ち向かおう

愛知工業大学など各設置校に新たな生徒、学生らを迎え入れ、名古屋電気学園の平成十九年度がスタートしました。各設置校の新入生は大学・大学院、専門学校、高校、中学の計二千三百人。学園の新規採用教職員は、十五人でした。

各設置校の入学式は、四月二日から九日にかけ、愛工大を皮切りに行われました。大学入学式の式辞で後藤泰之学長は新入生を前に「今日の社会が求めているのは、豊かな学識と豊かな人間性を合わせ持った人間です。皆さんも出来るだけ早く、興味を持って打ち込めることを見つけ出し、確かなものにしてください」と、呼びかけました（写真㊤。式辞の要旨は⑧面に）。

式辞を述べる後藤泰之学長

同日行われた辞令交付式には後藤淳理事長と後藤泰之学長が出席。後藤学長は「少子化問題や若者の意識変化など、本学を取り巻く状況は厳しい。建学の精神を見つめ直し、立ち向かってほしい」と、教職員一丸となり学園発展のため、さらなる奮起を促しました。

なお、各設置校の入学式の様子は⑧面に掲載しました。

ＯＪＴ支援プロジェクト（仮称）立ち上げ

平成二十年度入試に合わせた学科再編や大学開学五十周年も控えた中で、若手事務職員自らが問題意識を持ち、大学改善に取り組んでいこうと「ＯＪＴ支援プロジェクト」（仮称）を立ち上げました。

五月中旬に大学職員、六月下旬に学園職員が初会合を開き、呼びかけに応じた各課の職員らがプロジェクトの運用や当面の取り組みなどについて意見交換しました。今後も会合の場を持ち、問題点の洗い出しや改善策に取り組んでいくことにしています。

ＯＪＴ支援プロジェクトメンバーの初会合

エコ電力研究センター開設

次世代型電力供給システムの開発を

エコ電力研究センターが四月、愛工大の八草キャンパス内に文部科学省の社会連携研究推進事業として産学一体で進めるプロジェクト「マイクログリッド導入による次世代型電力供給システムの開発」を目的に開設されました。研究支援本部の四番目の研究施設になります。

同システム開発は、世界的な問題になっている地球温暖化防止のためのクリーンな電気を供給する目的で、工学部の一柳勝宏教授と雪田和人准教授らを中心に組織するコンソーシアムが立ち上げました。計画によりますと、同プロジェクトは五カ年計画で、自治体や企業とも連携し太陽光発電、風力発電など自然エネルギーによる電気エネルギーの自給自足を目指します。中でも問題となる安定供給のため、マイクログリッドと呼ばれる小さな複数の発電設備と複数の需要設備をまとめてコントロールするシステムの開発に取り組みます。

同センターは、ＡＩＴプラザの北側にあり、入り口に置かれた大きな木製の水車が目印です。

上の写真は、「エコ電力研究センター」

高大連携の絆強める

大学全入時代を迎え、国公立、私立大学では高校との提携を深めようという「高大連携」の動きが活発になっています。愛工大も平成十五年から、愛工大名電高校との間で高校生向けの「特別講義」や「大学見学会」などの各種連携プログラムを進めてきましたが、さらなる連携強化を図るため三月に「教育交流協定書」を名電高との間で結び、四月には学園の組織変更に合わせ、「高大連携推進室」を新設しました。体制整備を受けて推進室や入試センターなど関係部署が一体となった高大連携プログラムに取り組んでいます。

聞

進学する名電高校生に自分たちの目で耳で大学を知ってもらおうと行っているのが「愛工大見学会」。本年度も五月十日から始まりました。この日は理工コース三年生ら六十四人が二グループに分かれて、電気工学専攻と電子工学専攻の見学会に参加。穂積直裕工学部教授から専攻の講義内容の説明を受けた後、研究室で大学院生らから実際に取り組んでいる研究実験の話を聞くなどしました。短時間の八草キャンパス見学会でしたが、「専攻選びに役立ちました」と、実際に体験したことで進路先の手応えを感じている生徒もいて、案内役の各教員も力が入ってました。

月二～五回のペースで開く「先端科学技術入門」には愛工大の教員だけでなく、外部から講師を招いているのが特色。四月二十五日はノーベル賞候補にも挙がっている愛工大客員教授の遠藤守信・信州大学工学部教授が全一年生を前に「今、なぜ技術者を目指すのか」と題し講演。自身の開発した極細の筒状カーボンナノチューブを例に、技術革新が日本経済の発展を継続させ地球温暖化など環境問題解決につながると、改めて技術の重要性を力説。「勉強と努力は人を裏切らない。ネバー　ギブ　アップ」の呼びかけに、生徒らは、身を乗り出し話に聞き入っていました。

選

受験を控えた高校三年生を対象に特別講義のほかに行っているのが「愛工大専攻説明会」です。各専攻の特徴、内容を担当教員が高校に出向いて説明するプログラムで、本年度は五月二十五日、名古屋市千種区の名電高校で行われました。

説明会では、教員らが十三の専攻ごとに特色や具体的な講義の中身、就職先などを分かりやすく説明。来年度から新たに開設予定の専攻やコースの中には数学を選択しなくても受験できる文系のメディア情報専攻などがあり、同説明の教室には女生徒も数多く見られ、関心の高さをうかがわせていました。また、希望する二年生にも開放されており、三年生に交じり教員の説明を受けていました。

推

愛工大は三月十三日に愛工大名電高との間で、「教育交流協定書」を取り交わしました。従来から進めてきた普通科三年生の理工クラス及び中高一貫クラス対象の「特別講義」のほかに、本年度開設の科学技術科及び情報科学科の生徒ら向けに「先端科学技術入門」も新たに始め、いっそうの展開を図っています。さらに「愛工大専攻説明会」や「大学見学会」、「まるごと体験」などの連携プログラムの中身も充実させています。

四月の組織変更で大学組織として「高大連携推進室」（室長・稲垣慎二副学長）を新設し、高大連携事業の推進役を務めていきます。

「教育交流協定書」を披露する後藤学長㊨と桜井名電高校長

平成二十年度愛知工業大学入試の制度・日程決まる

一般入試前期は記述とマーク二方式
経営情報科学部ではＡＯ入試を導入

愛知工業大学平成二十年度入試の制度や日程が左の表のように決まりましたが、学科再編や推薦制度、受験科目の見直しもあって前年度と大きく変わっています。

入試制度では一般入試の前期日程が従来の記述式（Ａ方式）とマーク式（Ｍ方式）の二本立てとなり、代わりに中期日程Ｍ方式がなくなりました。また、経営情報科学部ではエントリーセミナーで専攻への理解を深め興味を持った専攻を出願先とするアドミッション・オフィス入試（ＡＯ入試）を実施します。詳しくは下段のＡＯ入試をご参照ください。新専攻やコースでは工学部都市環境学科建築学専攻に数学を選択しなくても受験できる文系色の「住居デザインコース」（来年四月開設予定）。経営情報科学部情報科学科に世界に通用するクリエーターの育成を目指す「メディア情報専攻」（同）など設けます。試験別、入試会場は下記の通りです。

試験区分		出願期間	試験日	合格発表
ＡＯ入試		経営情報科学部 別表をご参照ください		
推薦入試	資格	10月17日～10月22日	10月29日	11月 2日
	女子学生	10月26日～11月 2日	11月 9日	11月16日
	一般	10月26日～11月 2日	11月11日	11月16日
	スポーツ	11月26日～11月28日	12月4日	12月 7日
一般入試	前期日程Ａ方式	1月 8日～1月21日	1月28日～1月30日	2月 8日
	前期日程Ｍ方式	1月 8日～1月21日	1月31日	2月 8日
	後期日程Ｍ方式	2月 8日～2月20日	2月27日	3月 4日
利用入試センター	一次Ｃ方式	1月 8日～1月18日	本校が独自で課す試験はありません。	2月 8日
	二次Ｃ方式	2月29日～3月 7日		3月19日

入試説明会開催

愛工大を高校の進路指導担当者や進学塾関係者らに広く知ってもらい、愛工大受験生を増やしてもらおうとの目的で、六月五日の岐阜市を皮切りに開催。六日の名古屋会場（名古屋ガーデンパレス）には百九校から進路担当教諭が出席。後藤泰之学長のあいさつに続き、渡辺修入試センター長ら担当者が、入試制度の変更点や新専攻の特徴などについて説明しました。以下、浜松市、津市、岡山市、松本市、富山市、金沢市、四日市市の順に開催。

名古屋入試説明会＝名古屋ガーデンパレス

【ＡＯ入試】　９月１９日　１０月２２日　愛工大
【資格推薦】　１０月２９日　愛工大
【女子学生推薦】　１１月　９日　愛工大
【一般推薦】　１１月１１日　愛工大
【スポーツ推薦】　１２月　４日　愛工大
【前期日程Ａ方式】１月２８、２９、３０日　愛工大、名古屋、岐阜、津、四日市、浜松、静岡、金沢、富山、松本、岡山
【前期日程Ｍ方式】１月３１日　愛工大、名古屋、岐阜、津、四日市、浜松、静岡、金沢、富山、松本、岡山
【後期日程Ｍ方式】２月２７日　愛工大、岐阜、津、四日市、浜松、富山
【センター入試一次・二次】本学が課す試験はありません

AO入試

注）①エントリーの際には学科・専攻を選択する必要はありません②セミナー受験後のエントリーレポート作成の段階で出願を志望する専攻を記入していただきます③審査結果が合格であった方に選抜入試の志願票を送付します。

手順	ステップ１	ステップ２	ステップ３	ステップ４	ステップ５	ステップ６	ステップ７
概要	エントリー受付	エントリーセミナー出席	エントリーレポート作成	審査結果発表（書類審査）	願書受付	選抜入試	合格発表
一次日程	7月11日～7月25日 7月28日（オープンキャンパス会場で受付）	7月29日	7月29日	8月 3日	9月10日～9月13日必着	9月19日	9月28日
二次日程	9月10日～9月13日	9月30日	9月30日	10月 4日	10月 9日～10月15日必着	10月22日	10月26日

学園事務局と大学事務局を統合

平成十九年度組織変更で学園組織見直し

八草キャンパス内の新本部棟㊨

平成十九年度の組織変更と人事異動を四月一日付で行い、大学への本部移転（今年二月）を機に学園本部と大学に分かれていた両事務局を統合し、文字通り「事務局」に一本化、職員の一体感と事務の合理化、効率化を図りました。

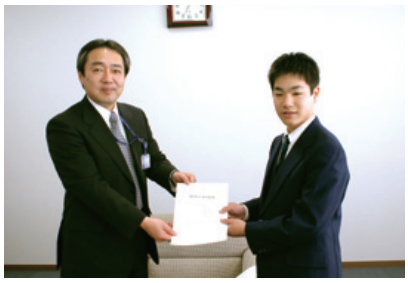
組織的には旧学園本部、旧大学の事務部門を整理統合し、現状に即した法人、財務、管理、学務部門の各部課などを配し、骨太の事務局にまとめ上げました。これにより旧体制意識が払しょくされ、職員の意識改革や事務改善への道筋ができたといえます。大学も、大学全入時代など踏まえ従来から取り組んできた「高大連携」強化のため、高大連携推進室を新設し、学園設置校の愛工大名電高校を対象にした各連携プログラムの推進、拡充を図っています。具体的には、四月の新学期から従来の特別講義などに加え、科学技術科及び情報科学科生徒向けの「先端科学技術入門」を開講するなど滑り出しは上々です。（組織変更と人事異動詳細は⑤～⑦、高大連携各事業は②面に掲載）。

勉学の志サポート

▽大矢奨学金△今年四月、愛工大名電高校から愛工大へ進学した佐藤紀明君と、愛工大附属中学校から名電高へ進んだ渡邊貴大君にそれぞれ支給されました。

同奨学金は、名古屋電気学園監事を務めた故大矢覚明氏の遺志で、附属中から名電高、名電高から愛工大へ進学した成績優秀者に贈られます。各入学式当日、後藤愛工大学長から佐藤君と渡邊君へ励ましの言葉とともに、交付されました。

▽新入生選抜奨学生△愛工大一般入試前期日程で成績優秀な学生を奨学生として採用する制度です。本年度は工学部応用化学科に入学した三重県四日市市出身の増田真一君と決まり、大学入学式の四月二日に後藤学長から採用通知書が手渡されました。



後藤学長から新入生選抜奨学生採用通知書を手渡される増田真一君

▽成績優秀奨学生△愛工大の各専攻別成績優秀者に支給される奨学金です。平成十九年度は二年生―四年生の各十二人の合わせて三十六人と決まり、支給されます。

▽スポーツ奨学生△高校生時代に各種運動競技大会で優秀な成績を収めた愛工大経営情報科学部の新入生と在学生合わせて四十二人に支給が決まりました。

国際交流

愛工大ではインドのSSN大学と新たに学術交流提携を結ぶ一方、昨年十二月に提携を結んだ米国ジョージタウンカレッジから教員と学生が約三週間滞在し日本文化セミナーを受講しました。

○…スリシバスブラマニーヤナダール（SSN）大学とは▽教員・研究者、学生の交流▽共同研究▽学術資料や刊行物の交換を行う、との学術交流協定を結びました。SSN大は、インド南部のタミールナドゥ州チェンナイ市にあり、電気工学など十学部からなる工業大学で、教員数二百二十人、学生数三千四百四十八人。

共同研究のため愛工大に滞在中のSSN大のラジェシュ・ナラヤラ・ペルマール教授が四月十七日、後藤泰之学長に会い、カラ・ビジャー・クマール学長から託された協定書を手渡しました。

協定書を手にした後藤学長、ラジェシュ教授ら（左から）

○…ジョージタウン・カレッジ（ケンタッキー州）のメンバーは、引率者のミッチェル・リッチ助教授（日本文学専攻）と、ジェレミー・パトリック君ら一、二年生の男女学生五人。愛工大の学生寮などに宿泊し五月十四日から六月二日まで、本学で「日本文化セミナー」を受講しました。同カレッジから学生らが来たのは初めて。

受け入れ側の国際交流委員会委員長の森豪基礎教育センター教授が「日本文化セミナー」を用意し、日本の自然、言語、文化の講義のほか、書道や日本に伝わる「竹とんぼ」など、遊び

講師から書道を習うジョージタウンカレッジの学生ら

平成19年4月1日の組織変更と人事異動

《組織変更内容》

▽学園本部事務局と大学事務局を統合し、『事務局』とする。『事務局』は、法人部､財務部、管理部、システム管理部、学務部で構成する。

▽法人部に新たに法人課を設ける。

▽学園・財務部の会計課、経理課、予算課と大学・会計課を統合、改編し､財務部に財務課と会計課を置く。

▽学園・管理部の用度課、管財課と大学の営繕課、警備課を統合、改編し、管理部に調達課、管財課､警備課を置く。

▽総合企画本部の企画課、広報課、ホームページ室を統合し、企画広報課とする。

▽総合企画本部のシステム管理室を『事務局』に置き､システム管理部と改称し、システム管理部にシステム管理課を設ける。

▽『事務局』に学務部を置き、学務課と助成課を設ける。

▽大学に高大連携推進室を設ける。

▽大学学生支援本部の就職支援センターをキャリアセンターとし、就職課は廃止する。

▽大学入試本部入試センターの入試広報課を入試課と改称する。

▽大学研究支援本部にエコ電力研究センターを設ける。

▽大学研究支援本部の総合技術研究所及び各センターの事務室は廃止し､事務業務は研究支援本部で行う

▽若水地区に若水事務本部を設け、その下に高校事務部と中学校事務部を置く。

《人事異動》（課長補佐級以上。「○」は再任、「・」は兼務、カッコ内は前職を示し､大学教員の専攻名と組織名・職名改称の変更者及び敬称は省略しました）

【任命】

（大学）	副学長・大学院工学研究科長（工学部長）	工学部電気学科教授	小嶋　憲三
	工学部長	工学部電気学科教授	江口　一彦
	○基礎教育センター長	基礎教育センター教授	吉賀　憲夫
	研究支援本部長	工学部応用化学科教授・学長補佐	酒井　忠雄
	学生支援本部キャリアセンター長・インターンシップ支援センター長	工学部電気学科教授	村瀬　　洋
	入試本部入試センター長（同副センター長）	工学部機械学科教授	渡辺　　修
	研究支援本部エコ電力研究センター長	工学部電気学科教授	一柳　勝宏
	高大連携推進室長	工学部応用化学科教授・副学長・学生支援本部長	稲垣　愼二
	研究支援本部副本部長	工学部機械学科教授・学長補佐	櫛田玄一郎
	学生支援本部教学センター副センター長	工学部都市環境学科教授	曽我部博之
	工学部機械学科特任教授（同教授）		酒井　春雄
	工学部都市環境学科特任教授（同教授）		長瀧　重義
	経営情報科学部情報科学科特任教授・専門学校長（同教授・専門学校長）		白岩　義夫
	経営情報科学部情報科学科特任教授（同教授）		安井　一民

【新規採用】

（大学）	工学部電気学科教授	高村　秀一
	工学部機械学科教授	神谷　恵輔
	経営情報科学部情報科学科教授	稲垣　康善
	基礎教育センター教授	甲村　和三
	基礎教育センター教授	佐藤　順彦
	経営情報科学部マーケティング情報学科准教授	小森　清久
	学生支援本部キャリアセンター参事・インターンシップ支援センター参事	美頭甲子雄
	入試本部入試センター参事	市川　繁富
（専門学校）		
	助教授（同常勤講師）	村瀬　正敬
（高校）	教諭	米倉　逸克
	教諭	犬飼　由彦
	教諭	野﨑　敏広
	教諭（同常勤講師）	米村　神菜
（中学）	教諭・高校教諭（同常勤講師）	沼田　敏明

【新規委嘱】

（大学）工学部電気学科客員教授（同教授）　澤　五郎
工学部機械学科客員教授（同教授）　中原　崇文
研究支援本部総合技術研究所客員教授　浅井　滋生
（高校）常勤講師　横井　尚治
常勤講師　大澤　和貴
常勤講師　安武　正浩
常勤講師・中学常勤講師　福嶋　則人
（中学）常勤講師・高校常勤講師　風岡　陽子
常勤講師・高校常勤講師　西川　健
常勤講師・高校常勤講師　梅村　和正

【昇格・兼務】

（大学）工学部電気学科教授（同助教授）　古橋　秀夫
基礎教育センター教授（同助教授）　磯部　哲也
基礎教育センター教授（同助教授）　服部　洋兒
工学部機械学科准教授（同講師）　道木　加絵
工学部機械学科准教授（同講師）　内田　敬久
基礎教育センター准教授（同講師）　伊藤　健
工学部事務室事務長＝次長級（同事務室事務長＝課長級）　立枕　孝之
学生支援本部教学センター学生課長（同課長補佐）　岡森　茂
学生支援本部キャリアセンター課長（同就職支援センター就職課課長補佐）　高島田孝之
入試本部入試センター渉外課長・総合企画本部企画広報課長（同渉外課課長補佐）
後藤　幸樹

（事務局）
法人部次長・同人事課長（総務部人事課長）　矢野　敬典
財務部会計課長･システム管理部システム管理課員（財務部会計課課長補佐）
伊藤　昌典
財務部財務課課長補佐（財務部経理課係長）　松井　俊浩

（若水事務本部）
高校事務部課長（高校事務部課長補佐）　小島登志子

【所属変更・職名変更・兼務等】

（大学）経営情報科学部情報科学科准教授・高校教諭（高校教諭）　鳥居　一平
事務局長・学務部長（大学事務局長）　宍戸　哲
学生支援本部事務長（経営情報科学部事務室事務長）　松沢　勝義
研究支援本部事務長（学生支援本部事務長）　永田　純作
入試本部入試センター参事（同次長）　藤墳　秀則
研究支援本部参事（事務局会計課長）　加藤　友也
経営情報科学部事務室事務長（学生支援本部教学センター学生課長）　河野　信
本山キャンパス事務室事務長（同課長）　宇田　秀樹

（事務局）
管理部管財課参事（大学事務局営繕課長）　齋藤　擧周
法人部法人課長・大学高大連携推進室課長（総合企画本部企画課長）　山田　行政
学務部学務課長・同助成課長（大学事務局総務課長）　井澤　清人

（若水事務本部）
事務部長・高校事務部事務長（高校事務部事務長）　若杉　和彦

【兼務解除】

（組織の統合･改編により廃止された部署の兼務解除、本務と兼務の入替えによる兼務解除は省略）

（大学）学生支援本部就職支援センター長の兼務を解く　工学部電気学科教授　依田　正之
学生支援本部インターンシップ支援センター長の兼務を解く
工学部機械学科教授　岩永　弘之
入試本部入試センター長の兼務を解く
経営情報科学部マーケティング情報学科教授　石垣　尚男
大学企画推進室副室長の兼務を解く　工学部都市環境学科教授　建部　英博
学生支援本部教学センター副センター長の兼務を解く　工学部機械学科教授　高木　誠

本山キャンパス事務室事務長の兼務を解く　学生支援本部事務長　松沢　勝義

（事務局）

学園事務局財務部会計課長の兼務を解く　学園事務局財務部次長　川出　善晴

総合企画本部システム管理室課長補佐の兼務を解く

学園事務局財務部会計課長　伊藤　昌典

【退職】

（大学）電気学科教授　副学長・澤五郎、機械学科教授・酒井春雄、同・中原崇文、都市環境学科教授・長瀧重義、同・曽田忠宏、同・大井孝和、同・中田幸男、情報科学科教授・白岩義夫、同・安井一民、マーケティング情報学科助教授・富田八郎、基礎教育センター講師・太田伸幸、都市環境学科技術職員・永田昇

（総合企画本部）

参事・柳田充

（高校）教諭・岡田裕

【委嘱終了】

（大学）機械学科客員教授・寺田耕、基礎教育センター客員教授・松本幾久二、同・神谷恒吾、同・野本久夫、基礎教育センター助教授・坂井久司、学生支援本部教学センター学生課嘱託職員・町田厚子、附属図書館実習補助員・加藤久嗣、基礎教育センター実習補助員・鈴木章宏、計算センター実習補助員・太田淳、情報科学科実習補助員・伊賀大生、同・松尾晋成、応用化学科実習補助員・林修一、都市環境学科実習補助員・越村敦史、ポストドクトラル研究員・汪昕、同・程新群

（高校）常勤講師・椴山陽子、実習補助員・篠原貴之

（中学）実習補助員・吉川弘樹

定年、新規採用者らへ辞令交付－お元気で。これからよろしく

元気にお過ごしください

定年などで平成18年度末で退職した教職員らに対する辞令交付式が３月30日、本部棟２階会議室で行われました。後藤淳理事長、後藤泰之愛工大学長が退職者一人ひとりに辞令と記念品を手渡し、後藤理事長が退職者の経歴や業績など挙げ、「今後も元気に過ごし、学園にも顔を見せてください」と、ねぎらいの言葉をかけました。退職者を代表し、澤五郎前副学長が「これからは（大学の）外から学園の発展を見守っていきます」と、お礼を述べました。この後、理事長ら学園幹部を囲み和かに歓談しました。

後藤淳理事長を囲み、記念写真に収まる退職者ら＝本部棟で

後藤淳理事長㊧から新規採用の辞令を受け取る高村秀一工学部教授＝本部棟で

新しい息吹を学園に

新規に採用された教職員と任命・昇格者に対する辞令交付式が４月２日、午前、午後に分けて本部棟２階会議室で行われました。午前の新規採用者の辞令交付式では、後藤淳理事長が高村秀一工学部教授ら大学、専門学校、高校、中学校各教員合わせて13人と、事務職員２人に辞令を手渡しました**＝写真㊧**。午後からの任命・昇格者の辞令交付式では副理事長の後藤泰之愛工大学長が「建学の精神を見つめ直し、それぞれの職務に励んでほしい」と述べ、小嶋憲三副学長・大学院工学研究科長ら大学教員10人に任命の辞令と、矢野敬典法人部次長兼同人事課長ら事務職員７人に昇格の辞令を手渡しました。

ようこそ学園へ－各設置校で華やかに入学式

【大　学】四月二日午前十時から鈴徳館。学部・大学院千五百四十八人を代表し電気学科の佐藤紀明君が宣誓。

【高　校】四月六日午前九時から喬徳館。五百六十六人を代表し宣誓したのは普通科の加藤史也君でした。

大きな目標を掲げ「挑戦」を

【専門学校】四月九日午前十時から四〇二講義室。六十六人を代表しCAD・CAM学科の近藤圭介君が宣誓。

【附属中学】四月六日午前十時から愛名館。百二十人を代表して林香里さんが宣誓しました。

平成１９年度愛知工業大学入学式

後藤泰之学長の式辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。愛知工業大学を代表して心から歓迎いたします。ご列席のご父兄、保護者の皆様には、大切な方々の将来を本学に託していただき、重い責任を痛感しております。今後とも本学の様々な取り組みに対し、ご理解、ご協力をお願いいたします。ご来賓の皆様にはお忙しい中、ご臨席を賜り誠にありがとうございます。心から厚くお礼申し上げます。

さて、本学は、「自由・愛・正義」の建学の精神の下、一九五九年、昭和三十四年に開学されました。以来、発展、充実に努め、現在、工学、ビジネス、情報の三分野にわたって、最新かつ高度な教育研究を行っております。本学を設置している名古屋電気学園及び本学の教育の特徴は、実学教育の実践にあります。「社会に役立つ人材の育成」こそが、本学の教育が目指す最大の目標です。

愛知県を中心とするこの地域は、自動車をはじめ、最新の科学技術を基盤とする産業が活況を呈しています。愛知県を中心とした東海地域は、日本の中でも経済的に最も活力のある地域だといわれています。産業集積率の高さ、ものづくりの確かさ、堅実で先見性のある経営など、伝統に根ざした優れた特質があります。また、最近は、ビジネスのグローバル化にともない、ますます地域の国際化が進んでいます。

しかしながら、一方、今日の日本社会には、困難な多くの課題が存在しています。少子高齢化や、厳しい競争が生み出す、いわゆる「格差の問題」、環境汚染、地球温暖化、あるいは若者の職業意識の変化など、多くの難問に直面しています。

教育の分野においては、いわゆる「教養教育」の軽視によって、高等教育の基盤が失われようとしています。わが国の繁栄にとって最も大切とされる、「人づくり」が根幹から危機にさらされています。これらの問題は、従来の手法や考え方では、解決が難しいと思います。新しい時代は、新しい担い手を必要としています。今、新入生の皆さん全員が、新しい時代の担い手となるためのスタートラインに立っています。

今日、社会が求めているのは、創意工夫を具体化する確かな学識と、豊かな人間性を合わせ持った人間です。そうした人材の養成こそが、本学の教育モットーである「創造と人間性」の意味するところです。入学生の皆さんには、できるだけ早く、興味を持って打ち込めることを見つけだし、さらに確かなものにしていただきたいと思います。ロボット、コンピュータ、高層ビル、e-ビジネス、環境問題、どんな分野でもあっても構わないと思います。授業、クラブ活動、友人や先生との触れ合い、そんな日常の中から見つけ出せるかもしれません。

本学には歴史と伝統が培った膨大な学識や科学技術の蓄積があります。それぞれ専門の知識や技術を身につけた、有能で魅力ある教職員がそろっています。それらを十二分に活かせるかどうかは、ひとえに皆さんの「元気」と、「やる気」にかかっています。本学の主人公は、皆さん、一人一人の学生なのです。皆さんの能力が十二分に発揮されるよう、教職員一同、全力でサポートすることをお約束します。

最後になりましたが、新入生諸君が健康に留意され、有意義なキャンパスライフを送られるよう心から願って、本日の式辞といたします。

夢実現目指し新たな一歩－各設置校で卒業式

多くを学び、経験し今、飛躍

【大　学】三月二十三日午前十時から鉀徳館。工学部の谷口和也君が二学部千三百三十五人を代表して、謝辞を述べました。

【高　校】三月一日午前十時から喬徳館。六百三十一人を代表して、謝辞を述べたのが、普通科の浅井幸子さん。

【専門学校】三月十五日午前十時から四〇二講義室。謝辞を述べたのが、八十三人の代表、ＣＡＤ・ＣＡＭ学科の西尾暢仁君。

【附属中学】三月十六日午前十時から喬徳館。山田優学君が一〇一人を代表して謝辞を述べました。

大学院工学研究科博士課程を修了し博士論文に合格した、永和久、平野慎也、上田正の三氏（いずれも電気・材料工学専攻）に対し三月二十三日の愛工大卒業式の場で、後藤泰之学長から博士号を授与されました。式後、新博士三人を囲む懇親会が本部棟で開かれ、後藤泰之学長や指導担当の教授らと歓談。学長らにねぎらいの言葉をかけられると、永さんらは博士号を取るまでの経過など振り返り、「今は感無量です」と感激した面持ちで話していました。この後、新博士誕生を記念し、学長らを囲み記念写真を撮りました。

新博士の皆さん、おめでとう！

就職状況は好調持続

大学二学部の就職希望者の内定率百％

キャリアセンターが四月中旬でまとめた今春卒業の工学、経営情報科学両部の就職希望者内定率は百％でした。それによりますと、卒業生千三百四十四人のうち進学など除く就職希望者は千二百十一人で全員が内定と好調。学科別は左の表通りです。同センターは毎年二、三月に三年生らを対象に学内企業展や地元企業交流展など開催し、就職支援活動を行っています。

今年２月、鉀徳館で開かれた大学企業展

◇平成１８年度学部就職内定状況

（４月19日現在の最終集計結果。学科名は専攻制導入前の名称）

学科	卒業生	就職希望者	内定者
電気工学科	172	161	161
電子工学科	163	148	148
情報通信工学科	125	116	116
応用化学科	144	123	123
機械工学科	177	153	153
土木工学科	115	106	106
建築学科	164	155	155
建築工学科	95	81	81
経営情報学科	120	108	108
マーケティング情報学科	69	60	60
計	1344	1211	1211

ACE

奨学生制度を新設
学業、遠隔地奨学生

愛工大情報電子専門学校（ACE）は平成十九年度から、成績優秀な学生や遠隔地から来ている学生を支援する目的で、奨学生制度を新設しました。制度は▽学業奨学生▽遠隔地奨学生の二種類。学業奨学生は対象が全員で、その中で最も成績の優秀な一年生一人、二、三年生合わせて一人に支給。期間は一年間（学年終了のつど後期試験結果などで選考）、奨学金は一人につき一年間四十万円です。遠隔地奨学生は、愛知県外か、県内在住者だが公共交通機関で片道二時間以上かかる学生から成績と遠隔地条件で選考。一年生で四人以内、二、三年生合わせ四人以内、期間は半年間（前、後期終了のつど各試験結果などで選考）、奨学金は一人につき半年間十万円です。いずれも返済は不要です。

創部五十一年の実力披露
名電高校吹奏楽部が定期演奏会

全日本吹奏楽コンクール出場常連校の伝統と実力を誇る愛工大名電高校吹奏楽部の定期演奏会が二月四日、名古屋市熱田区の国際会議場で開かれました。後藤淳学園理事長が「海外演奏で国際交流にも貢献している吹奏楽部のさらなる飛躍を期待している」とあいさつした後、伊藤宏樹、梶山宇一両顧問の指揮で、バレエ音楽「ロミオとジュリエット」や「涙そうそう」などクラシックからポピュラーまで、次々に演奏しました。

また、その合間に華やかな衣装をまとったマーチングバンドが舞台狭しとステージドリルを披露し、会場を埋めた観客から大きな拍手を受けていました。

観客を魅了した定期演奏会

第一回学校説明会
附属中学校で

附属中学校は五月二十六日、平成二十年度入試に向けた初めての学校説明会を南館集会室で開きました。参加したのは、保護者と小学六年児童ら約百二十人。集会室で桜井正一校長が「附中は若い先生が多くエネルギッシュで、社会に役立つグローバルな人材づくりを目指します」とあいさつ。この後、進路担当の教員らが学校の概略、カリキュラムなど説明。その中でも保護者らは愛工大や名電高校などへの進学関係の話に熱心に聞き入っていました。

児童らはその間、各教室で開かれた社会、国語などの授業を体験。「ミカンが一番採れる県は」とクイズ方式の授業や、金属の色を変える実験を楽しんでいました。また、入試や学校生活に関する個別入試相談も行われました。

履修申告を変更

愛工大は、平成十九年度履修申告の方法を従来の申告カード（OCR）からWEB履修登録システムに切り替えました。履修申告は、授業の受講、試験、卒業すべてに関わる重要な手続きで、申告を怠ると試験等で合格しても単位の修得が認められないというケースも生じます。

同システム導入で、学生らはインターネット環境があれば、パソコンを使って自宅からでも履修申告が出来るようになりました。新入生は四月上旬に計算センター実習室などで、手引き書や教務課職員らの説明を受け、パソコンに必要事項を入力していました。

編集後記

最近、よく耳にするのが「億」に関するニュースです。消えた年金九百五十億円、遺族相続税十五億円隠し、タレントの結婚披露宴五億円▼挙げたらきりがないほど「億」に関する話題は尽きません。私たちはいつから「億」というお金を意識し始めたのでしょうか▼平成生まれには記憶がないかも知れないが、昼日中、大胆な手口で現金輸送車から三億円を強奪した「三億円事件」は世間を“あっ”と言わしめたほど巨額でした▼今では三億盗難でも世間は驚かなくなりました。それと合わせたように、しぼんできたのが「夢」でないでしょうか。「夢」や「希望」が見えない今の時代に将来を不安視する若者の姿がダブります▼今春、学園の各設置校には、フレッシュマンが入学してきました。若者の表情には屈託がありません▼時間はたっぷりあります。ここは「考える葦」となって、将来の夢と「お金」以上に大事なものがあることを勉強と同時に学んでほしいと思っている、このごろです。（久）